

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100174		
法人名	医療法人 和行会		
事業所名	洛和グループホーム大津若葉台		
所在地	滋賀県大津市若葉台30番25号		
自己評価作成日	平成25年5月2日	評価結果市町村受理日	平成25年8月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2590100174-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2590100174-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年 6月 11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境のもとアットホームで、居心地の良い空間作りをしている。地域交流にも力をいれており、年4回グループホームだよりを発行、回覧板で地域のかたに見て頂いている。また月1回ふれあいサロンに参加、現在は自治会館で行なわれている書道教室にも1人通われている。毎年、自治会館にて認知症サポーター講座を開催しているが、今年は老人クラブでも介護のことを話しあっているとのことで一緒にできないか、自治会長を通して老人クラブに働きかけてもらっている所である。これを期にGHの消防訓練など参加して頂けるようにしていきたい。  
人員の問題などで必ずしも利用者の希望が全て叶えているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるよう各職員が日々話し合い考え支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間で検討し作り上げた事業所理念に、「思いあい、助け合い、笑いあい」と謳い事業所に掲示すると共に、利用者や職員が互いに人としての関わりの中で理念が活かせるよう日々の支援に努めています。職員は利用者のできる事を引き出し、利用者は食事の準備では刻むことや和え物作りなどの調理に力を発揮するなど、役割が持てるよう支援しています。また一人で出かけた方には利用者との間に約束事を作り、職員が見守る中、一人で外出してもらうなど、常に利用者を尊重し意向を大切にされた支援に努めることが、利用者との信頼関係が深まり、事業所全体がアットホームでのびやかな雰囲気繋がっています。職員は毎年掲げた目標に向けスキルアップを図りながら、様々に意見を出し合い、利用者を中心としたサービスの提供に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いあい 助けあい 笑いあい」という事業所理念を掲げ、利用者間・職員間・職員と利用者の関係・グループホームと地域との関係の4つの関係性において、理念の実践できるよう取り組んでいます。	開設時に職員間で思いを検討し作成された事業所理念は、地域や家族を含めた人と人の関わりを大切にしたいとの思いを形にしています。理念は事業所に掲示し、職員は理念に沿っているか絶えず心に留め、利用者間でも互いへの思いやりが育まれており、日々の支援に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方と顔を合わせた時には積極的に挨拶するようにしている。 自治会に加入しており、地域の夏祭りや敬老会、ふれあいサロンにも参加しています。	自治会の回覧板などから情報を得て、老人会のふれ合いサロンなどに参加しています。散歩時に出会った方々と挨拶を交わし、花を頂くなどの交流を持っています。水墨画やバイオリン演奏などのボランティアの来訪や事業所の秋祭りは、子どもたちと共に楽しむ地域の定例行事となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対して年4回、事業所の便りを発行し、自治会館で認知症サポーター養成講座を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会長にも参加していただき 如何にして地域交流を図り、地域の一員となってゆくにはも含め、話し合っている。	運営推進会議は2か月に1度行われ、事業所からの状況報告と共に、意見交換を行っています。公民館の改修や車いすが設置されたことで公民館行事への参加がスムーズになるなどの地域情報を得たり、老人会向けに認知症サポーター講座の実施に向けた検討が行われるなど、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市の認知症相談窓口事業に登録している。	市からは時期的な食中毒などの注意喚起の情報や研修案内が事業所に届き、参加するようにしています。質問や相談、待機者状況などの報告は主に法人を通して行っており、法人として様々な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロを目標としており、内部における研修もある。しかしながら左記の基準を職員全員が明確に理解出来ていないかもしれないものの、当たり前には守られる人権である事は理解できている。	毎年行われる法人の身体拘束についての研修に参加した受講者による伝達研修が行われると共に、職員はレポートを提出し、理解を深めています。玄関は夜間以外は開放し、一人で出かけたい方には利用者との間で約束事を作り、職員が見守る中出かけてもらったり、一緒に出掛けるなど行動を制限しないよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にての研修もあり、参加し事業所で伝達研修もおこなっている。		

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内にての研修もあり、参加し事業所で伝達研修もおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得出来る様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、直接的な言動の他、些細な変化からその思いをくみ取れる様努めている。 家族に対しては無記名の満足度調査を年2回実施。	家族の面会時には近況報告を行うと共に意見や要望を聞いています。面会の少ない家族には、介護計画の更新時などに希望記入用紙を用いて意見の収集を図っています。居室の扉の開閉についてやポータブルトイレの臭いの問題など、出された意見については職員間で検討し改善すると共に、運営推進会議などでも検討内容を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対しても、年2回の満足度調査を実施している。それ以外にも法人からのアンケート調査により、思いを伝えることは出来るようになっており、必要に応じて面談も行っている。	毎年職員へのアンケート調査の他、年2回管理者による面談で職員が掲げた自己評価の進捗状況の確認をすると共に、提案や意見を聞く機会を持っています。毎月のミーティングでも意見を出し合い、日々のアクティビティーの充実に向けた意見などがだされ、業務改善や見直しに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	力量評価を行い、適切に職員自身を見極める様に努め、その能力に応じて職務を担当させている。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の力量評価を行い、必要な研修においては内部、外部問わず受講を勧めている。 また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、研修や会議の場面においての交流が図れる様になっている。 外部では研修を通じての交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活やこれからの生活への望みなどをしっかりと受け止め、安心できるサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをしっかりと受け止め、本人の思いを受け止めるのと同様に、安心できるサービスの提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各家庭の事情もあり、利用に踏み切る理由は実に様々。サービスを利用しなければならぬその原因を明確にすべく、面接の段階で話を聞くことにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という状態ではあるが、なにより大切なのはその人らしさが尊重されることである。利用者と職員は、第一に人間同士としての関係性、信頼関係が構築出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用する事により、家族としての関係が希薄にならないよう、家族の関係がより良いものとなるように、本人を中心に関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話や、馴染みの美容室、店への外出や故郷へのドライブを行っている。 家族に対しても、これらを理解してもらえようようにその重要性を伝えるようにしている。	友人や知人の来訪があり、お茶を出すなど寛いでもらえるよう配慮したり、利用していたスーパーへの買い物や今迄通っていた美容院を利用できるよう支援しています。また利用者の思いを家族に伝え、遠方への帰郷や法事への参加に向けて利用者の体調を整え、安全な外出に向けた支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共に過ごす者同士、当たり前の関わりが出来る様、時に職員が間に入りながら自然に関わりが持てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が病院に見舞いに行くこともある。力になれることがあれば、支援して行きたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールにはセンター方式を使用し、必要な情報の集約に努めている。情報提供が受けられない場合などは、本人との係わりの中からその思いをくみ取るようにしている。	入居にあたっては本人や家族から今迄の生活歴などの情報を得たり、日々の支援の中から利用者の全体像を探り、意向の把握につなげています。また利用者が発した言葉や職員の気付きなどの記録を下に意見交換し、利用者の思いを汲み取れるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールにはセンター方式を使用し、必要な情報の集約に努めている。情報提供が受けられない場合などは、本人との係わりの中から察することが出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族からの情報により、これまでの自分らしさを把握し、現状については日々の様子やセンター方式等の情報も踏まえ把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはどのようにして生活したいか？と自然な会話の中で尋ねる様にしている。家族には、プラン実施後の結果を伝えるとともに、希望を聞いている。また、医療職等にはその都度助言を頂き、計画に活かしている。	カンファレンスで本人や家族の意向を基に職員間で話し合い介護計画を作成しています。3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に職員間で検討し見直しています。見直しにあたっては家族に希望記入用紙を用いて意向を確認し、全職員による再アセスメントを行い介護計画を見直しています。往診時などに聞いた医師や看護師の意見なども計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実行は記録に明記している。その記録やカンファレンスでの話し合いから、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居により利用者がグループホームの生活に合わせるのではなく、今まで9人それぞれの生活があり個々のニーズにあわせ支援する必要がある。それぞれに合わせたくても制度や人員の基準等で必ずしも対応できないことがある。		

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるように、地域へはふれあいサロン、自治会の敬老会、夏祭りに参加し顔なじみになるようにしている。グループホームに来て頂くために秋祭りを開催し地域の方に呼びかけをしても共に支え合って生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の往診医を継続している方や、協力医療機関からの往診医が二週間に一度の定期往診、及び必要に応じて単発的な往診を受けている。急変時は24時間体制での支援が受けられるようになっている。	入居時に意向を聞いてかかりつけ医を決めてもらっています。継続されている方は家族が受診対応し、状況によって事業所で支援を行い、受信前後には家族と情報を交換しています。またかかりつけ医によっては往診もあります。協力医の往診は月に2度あり、必要な方には歯科受診や口腔ケアも行われると共に、週に1度訪問看護による健康管理が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師の訪問を受け、日常の健康管理を行ったり、健康上の相談が出来るようになっている。こちらも急変時など24時間体制での支援が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟の相談員とGH相談員が情報交換をし、必要に応じて医師、看護師、作業療法士、理学療法士、家族、利用者、相談員、GH管理者などで話し合いの場を持ち早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人にて看取り指針があり同意を得ている。終末期と診断された場合、本人や家族の希望をふまえ、できること・できないことを見極めながら、本人・家族・往診医・訪問看護師・職員で話し合いを行い、支援が可能と判断できれば支援していく方針である。	入居時には法人の指針を基に、事業所として出来ることなど伝えると共に意向を聞いています。日々の会話の中やアセスメント時にも重ねて意向を聴き記録に残しています。重度化する中では家族を始め関係者が集まり再度意向を確認し、方向性を話合っています。これまでに看取りの機会はなく、実践に基づいた法人による職員研修を受講し、意向があればホームで対応できる支援を行う方向にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて救命講習が開催され、全職員の受講を目標に今年度も取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な防災訓練を行い、年に1回は消防立会いのもとの訓練を行っている。 運営推進会議などで話し合っているが地域との協力体制を築くに至っていない。	消防署の立ち合いの下に、昼夜を想定した避難訓練や消火訓練を行い、2か月に一度通報や初期消火などテーマを定めて様々な想定のもとに行い、問題点や課題を検証し習熟に向けて訓練をしています。運営推進会議でも訓練への声掛けを行い、参加を依頼しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症である前に、一人の人間であるという当たり前の理解を忘れないよう意識し、その人らしさに配慮した対応を心掛けている。	職員は入職時研修や定期研修を受講して尊厳やプライバシー等についてを学び、人として利用者との信頼関係を築く事を大切に考え支援しています。共に生活する場であり、親しみのある声掛けをするようにしています。不適切な対応があれば個別に注意したり、場合によってはカンファレンスでも話し合い、自分や親が利用したい事業所になれるよう心掛け、質を高める努力をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞き、信頼関係を築き自然に希望を表せるよう努めている。理解できる力に合わせて選択方式などで自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望にそった支援を心掛けているが、業務に追われていることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は共に服を選んだりおしゃれをしている。美容室には入居前からの馴染みの店に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材注文時は広告を見ながら一緒に考えたり、できることを引き出し調理、盛り付け、味付けなど一緒に行っている。冷蔵庫に入っている食材で何を作るか一緒に考えている。体調を見ながら食器洗いも一緒にしてもらっている。	食材は利用者と広告を見ながら選んで地元のスーパーに発注し、おやつや生鮮食品は買い物に出かけています。食材を刻んだり、味付けなど利用者の得意分野で力を発揮してもらい、職員も共に食事をしています。誕生日などは利用者の希望を聞き、回転ずしなどの外食や食べたい物を作って食べるなど、希望に沿って食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、その摂取量をチェックシートに記録している。 箸の使用が難しい方にはスプーンを使用してもらうなどの支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの力に応じて口腔ケアの支援している。 今年度も毎食後の口腔ケアを目標としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する方はもとより、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレなど力に合わせた排泄介助を支援している。	利用者ごとの排泄状況を把握し、個々のパターンに沿って支援しています。紙パンツの方も日中は布とパッドで過ごしてもらったり、車いすの方も動きがスムーズになるように手引きで誘導するなど工夫をしています。紙パンツから布の下着への移行の検討では、利用者の思いも聞きながら試行期間を設けて変更し、湿疹が改善するなど、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をこまめに促したり、食事では食物繊維の多いものを摂取する出来る様に努めている。 必要に応じて、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングで入浴できるよう努めているが、前日入っていない方から声掛けをしている為、全ての思いに答えることは出来ていない。コミュニケーションやタイミングを見計らい楽しく入浴できるよう努めている。無理強いはいしないようにしている。	入浴は毎日準備を行い、希望に合わせて入浴してもらっています。週2回以上入ってもらえるよう支援し、風呂の好きな方は多く声をかけたり、夕方の希望があれば、状況に応じてできる限り支援したいと考えています。好みの入浴剤を使用したり、季節のゆずやしょうぶ湯を楽しんでもらっています。入浴を拒む方は利用者の習慣に合わせるなど工夫しながら入浴に繋がるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況、習慣に合わせて声掛けをしたり、本人のペースに合わせて休息したり、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は全職員が必ず確認するようにしており、その理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること・出来ないことを理解し、出来ることは継続して行えるよう、出来ないことはどこまで出来るのか？に見極めたうえでの支援を行い、役割や楽しみが行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望にそった外出ができるよう支援しているが人間的な理由などにより、全ての希望に添えているとはいえない。	緑豊かな周辺の散歩や近くのスーパーへの買い物に出かけています。季節に応じて桜や紅葉、アジサイなど、その時々要望に合わせてドライブを兼ねて出かけています。個別外出の要望を聞き、家族も誘って遠出の企画をしています。	

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・力に応じて支援するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望に応じ、支援が必要な場合は対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については季節の飾り物や、花など生活感のある空間作りに努めている。利用者に合わせて大きくなりがちなTVの音量にも配慮するように心掛けている。	リビングでの生活が少しでも変化があるよう、ソファの置き場所を工夫し、少し離れた場所で利用者同士が語り合えるよう考えるなど、居場所づくりに配慮しています。利用者の書かれた墨絵などの作品や、行事の写真をイラスト入りで掲示しています。毎朝窓を開けて空気を入れ替え、利用者に聞きながら室温を調整し、過ごし易いよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務スペースの3人掛けソファは、気の合う利用者同士の語らいの場となっている。ハード面は限られているが、リビングでの席など、共有空間での居場所作りを大切に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、家族の写真や花を飾ったり、使い慣れた家具や、大切なお仏壇など持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者が自宅で暮らしてきた生活をできるだけ取り入れるよう配慮し、書籍や仏壇、趣味の品々があり、使い慣れたタンスやコタツ、籐の椅子、思い出の品などを設置される中で、利用者にとって居心地良く安心した暮らしに繋がるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることの把握に努め、見極めをしながら居室等の表札や、トイレ・浴室内の手すりなどで少しでも自立した生活が送れるようにしている。		